

盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針

2020年3月 盛岡市農林部

目次

第1 背景と位置づけ

1 背景	1
2 位置づけ	2

第2 現状

1 岩手県の取組	3
2 盛岡市の取組	5
3 盛岡市企業の農林産物の輸出動向	6
4 りんご生産者の意向（アンケート）	7

第3 基本方針

1 重視する視点	9
2 基本方針	10
3 ロードマップ	12

第1 背景と位置づけ

1 背景

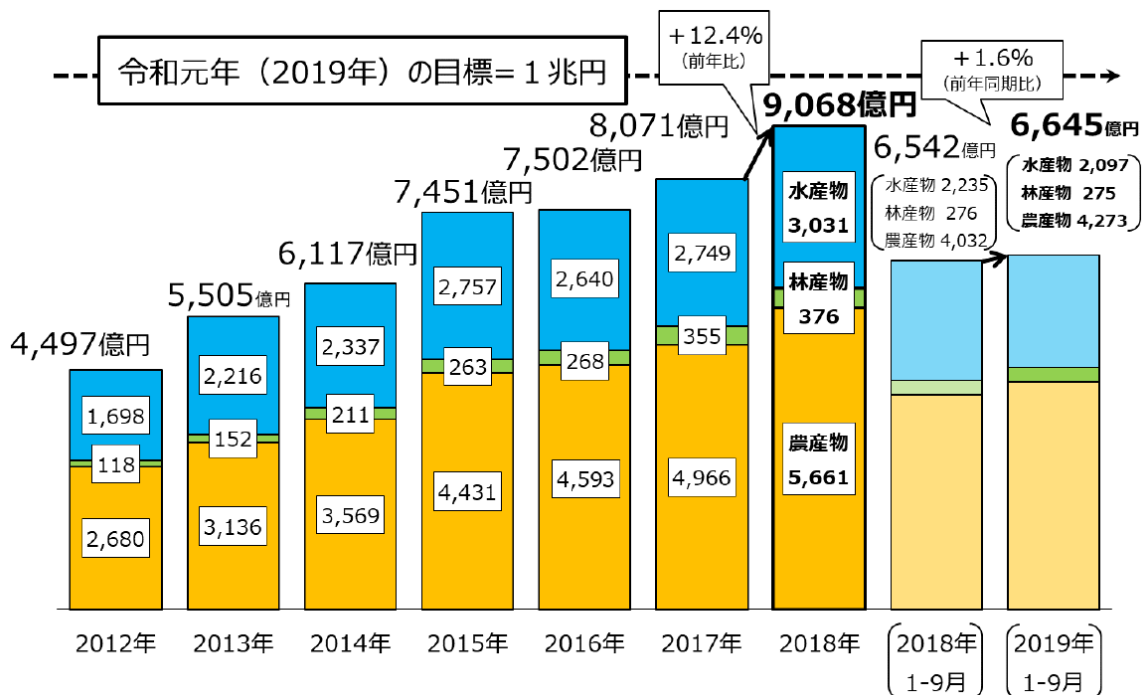
国内の食市場は、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、縮小すると見込まれている一方で、アジアを中心とした新興国では、経済成長、人口増加が進み、世界の食市場は成長を続けており、世界的に広がる日本食ブームも追い風としながら、近年、日本の農林水産物・食品の輸出額は、目覚ましい伸びを見せています。

2019年には、輸出の伸びが鈍化しているものの、国では、政府が掲げる輸出額1兆円の目標達成に向け、2020年以降も引き続きプロモーション戦略による海外需要の創出や輸出環境の整備、生産基盤の強化など、様々な取組を推進することとしています。

また、TPP11協定、日EU・EPA及び日米貿易協定の発効に伴う輸入品との競合激化も懸念されており、現在、国内の多くの地域において、農林水産物の輸出拡大に向けた取組が行われています。

盛岡市では、2018年3月に策定した「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に基づき、盛岡産農畜産物の魅力発信や販路拡大に取り組んでいますが、今後の国内食市場の縮小や輸入品との競合激化が懸念される状況下においては、これまでの国内の販路に加えて、新たに海外市場も視野に入れた積極的な販路開拓が重要になってくることから、この度、盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針を策定するものです。

【国の農林水産物・食品の輸出額の推移（農林水産省食料産業局HP）】



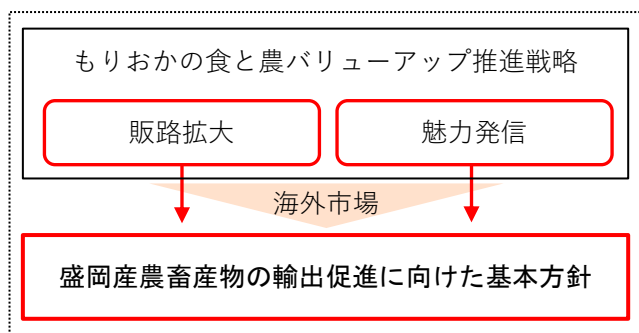
※2019年の輸出額は、前年比0.6%増の9,121億円程度となる見通し（2020年1月30日現在）。

2 位置づけ

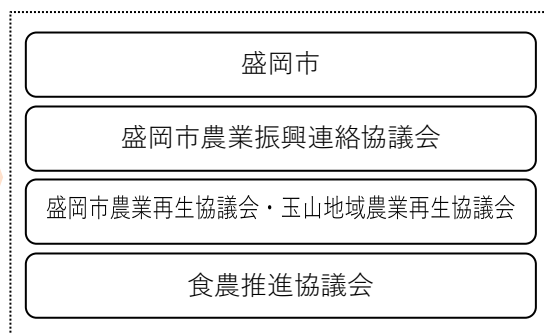
本方針は、盛岡産農畜産物の高付加価値化及び販路拡大の推進を目的とした「もりおかの食と農バリューアップ推進戦略」に基づき、盛岡産農畜産物の輸出促進に向けた基本方針、取組内容を取りまとめるものです。

取組に当たっては、「もりおかの食と農バリューアップ推進事業」として実施するほか、盛岡市や農業団体で構成する盛岡市農業振興連絡協議会や盛岡市農業再生協議会、玉山地域農業再生協議会、また、広域8市町で構成する食農推進協議会の事業にも位置づけながら事業を展開していくこととします。

【位置づけ】



【事業展開】



【もりおかの食と農バリューアップ推進戦略 10のアクションプラン（改定後）】

A	食と農をきっかけにした盛岡産農畜産物の魅力発信
B	異業種連携で応援！6次産業化による盛岡産商品・サービスの開発・改良
C	「盛岡産」の魅力を発信する盛岡市民向けイベントの開催
D	「盛岡産」を継承し続けるための啓発活動
E	「盛岡産」を選ぶ理由になる生産基準明示の推進
F	盛岡の食と農を支える生産・流通・消費の裾野の拡大
G	盛岡産農畜産物と消費者・食関連事業者をつなぐ場・仕組づくり
H	「盛岡産」の生産現場を体験・応援できる機会の提供
I	盛岡産農畜産物及び取組のターゲットに即した全国／世界を対象にしたプロモーション活動
J	人口減少に伴う食市場規模縮小を見据えた県外・国外への販路拡大

第2 現状

1 岩手県の取組

岩手県では、県産食品の販路拡大を図るため、国際流通を促進することを目的として、農林水産の関係団体・企業などで構成する「いわて農林水産物国際流通促進協議会」を設立し、同協議会を中心としながら、2017年3月に策定したいわて国際戦略ビジョンに基づき、アジア・米国市場をメインターゲットに、農林水産物の輸出拡大とブランド化に取り組んでいます。

(1) いわて国際戦略ビジョン（一部抜粋）

【農畜産物の重点品目・重点市場】

[凡例：◎ 最重点市場 ○ 重点市場]

	中国	香港	台湾	韓国	シンガポール	タイ	ベトナム	米国	欧州
米	○	◎	○		◎	○	○	◎	
りんご		◎			○	◎	○		
牛肉		◎	輸出認定申請中		◎	○	○	◎	

【品目別の取組】

品目	取組
米	2018年の生産調整の見直しや国内市場の縮小を踏まえ、日本食文化の普及が進む香港、シンガポール、米国をターゲットに、日本食レストランや日系百貨店への新規取引先の開拓による販路拡大を強化するとともに、中国、台湾、タイ、ベトナムの市場の開拓に取り組む。
りんご	他産地と差別化できる県オリジナル品種を中心として、香港、タイの日系百貨店への安定的な販路を確保するとともに、シンガポール、ベトナムの市場の開拓に取り組む。
牛肉	これまで形成されたネットワークを維持しつつ、ジャパンプランドの「和牛」として、富裕層向けに高値取引が期待できる香港やシンガポール、米国への安定的な販路を確保する。

(2) いわて農林水産物国際流通促進協議会

【2018年度の主な取組】

- ・ベトナム・タイ市場における定番商品化に向けた、海外バイヤーの招聘や現地でのプロモーション活動
- ・台湾＝花巻定期便就航に合わせた「台湾美食店2018」への出展
- ・県が定期便誘致を進めている香港でのレストランフェアでの岩手ブランドの発信
- ・カナダのバンクーバー市、ビクトリア市でのりんごフェアの実施
- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックなどのビッグイベントに向けた県産食材のPR

【2019年度の事業計画】

- ・これまで信頼関係を構築してきたアジア・米国市場の現地の卸業者、小売店や外食店などとの結びつきを強化し、安定した取引につなげる。
- ・新たにりんごの輸出が解禁となったカナダや、牛肉の輸出が解禁となったオーストラリアなどの新規取引先の開拓を進め、更なる県産農林水産物の輸出拡大を図る。
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピックなどのビッグイベントに向けた県産食材のPRを行うほか、県内で積極的に輸出に取り組んでいる事業者との連携強化、個人携行輸出の促進など、インバウンド消費と県産農林水産物の輸出の好循環を図る取組を推進し、更なる販路開拓・拡大を目指す。

【協議会の構成団体・賛助団体】

区分		機関・団体
構成団体 (21団体)	農林水産関係団体・企業 (21)	岩手県, 全国農業協同組合連合会岩手県本部, 新岩手農業協同組合, 岩手中央農業協同組合 ほか
賛助団体 (34団体)	食品産業関係団体・企業 (10)	岩手県酒造組合 ほか
	貿易関係機関 (2)	ジェットロ盛岡貿易情報センター ほか
	金融機関 (6)	株式会社日本政策金融公庫盛岡支店 ほか
	市町村 (13)	盛岡市 ほか
	国 (1)	東北農政局岩手県拠点
	農薬業者 (1)	
	流通業者 (1)	

2 盛岡市の取組

盛岡市では、J Aいわて中央が、商業ベースとして国内初となるカナダへのりんご輸出を開始したことを契機として、2019年2月にJ Aいわて中央とともに、姉妹都市であるビクトリア市などで盛岡りんごのトップセールスを行い、カナダへの輸出促進を図りました。

また、11月には、台湾花蓮市との友好都市提携の機会を捉え、台湾の中ですでに輸出実績のある台北市、台中市に加え、花蓮市が新たな盛岡りんごの輸出先となるよう、トップセールスをはじめとした販売促進イベントを実施し、台湾への輸出促進を図りました。

【盛岡りんごフェアインカナダ】

- ・行程 2019年2月7日～12日
- ・参加者 盛岡市，岩手県，J Aいわて中央
- ・りんご ふじ，はるか 計230kg



【盛岡りんごフェアイン花蓮】

- ・行程 2019年11月23日～24日
- ・参加者 盛岡市，岩手県，J Aいわて中央
- ・りんご 早生ふじ，シナノスイート，トキ，もりのかがやき 計450kg



3 盛岡市企業の農林産物の輸出動向

ジェトロ盛岡貿易センターが、県内の企業を対象に実施している「岩手県貿易等実態調査アンケート」によると、2018年の盛岡市の農林産物の輸出額は、台湾へのりんごの輸出額が半減したことに伴い、2017年と比較して減少しているものの、全体としては増加傾向にあります。

また、輸出先としては、「いわて国際ビジョン」における重点市場であるアジア・米国のほかに、カナダへのりんごや牛肉の輸出が行われています。

(単位：千円)

			2015年	2016年	2017年	2018年
品目	詳細品目	国名	金額	金額	金額	金額
果実	りんご	台湾	247,247	219,400	477,398	239,421
		タイ	2,684	1,515	3,900	5,421
		ベトナム	-	1,514	1,555	1,435
		マレーシア	641	1,514	1,002	-
		香港	1,084	1,514	-	2,441
		カナダ	-	-	-	2,850
		小計		251,656	225,457	483,855
花き	りんどう	シンガポール	369	-	1,138	7
		フィリピン	-	-	-	44
		UAE	-	-	-	713
		オランダ	8,102	-	9,432	4,131
		E U	-	8,071	-	-
		香港	-	-	-	876
		小計		8,471	8,071	10,570
その他の農林産物	牛肉	台湾	-	-	12,288	14,755
		シンガポール	-	66,667	29,572	27,691
		タイ	-	-	946	-
		ベトナム	-	-	-	-
		米国	-	66,666	69,313	94,896
		カナダ	-	-	14,492	33,665
		メキシコ	-	-	-	-
		ニュージーランド	-	-	3,901	4,898
		中国	-	-	302	-
		香港	-	66,667	77,084	138,106
		不明	-	-	-	26,204
	小計		0	200,000	207,898	340,215
	米	台湾	-	32,360	6,691	-
		タイ	-	-	-	3,092
		ベトナム	-	-	2,099	3,263
		シンガポール	39,292	32,388	45,716	42,574
		オランダ	866	2	-	-
		フランス	-	-	-	2,937
		香港	3,695	-	2,368	12,126
		米国	5,366	39,935	66,260	34,969
ロシア		929	-	-	-	
不明	-	-	-	721		
小計		50,148	104,685	123,134	99,682	
合計		50,148	304,685	331,032	439,897	
農林産物合計額			310,275	538,213	825,457	697,236

(出所：ジェトロ盛岡調「岩手県貿易等実態調査アンケート」)

・集計は、あくまでもアンケート回答を積み上げた結果です。そのためいわゆる「統計」とは根本的に性格を異にしています。従って、調査対象以外あるいは未回答の県内企業が別途輸出入に取組んだ可能性も否定できません。

・また、計上された輸出入実績は、県内企業としての認識を反映したものであり、必ずしも輸出入の本来の実勢を表していない可能性もあります。

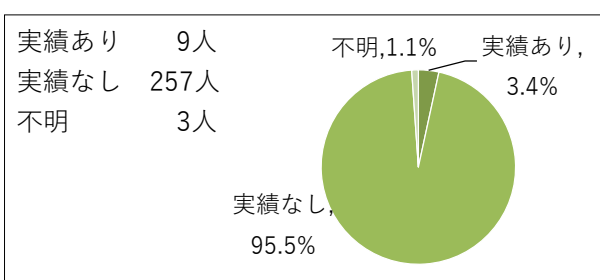
4 りんご生産者の意向（アンケート）

2019年7月から8月にかけて実施した「りんご生産者の経営に関する調査」において、輸出に関する意向を調査しました。

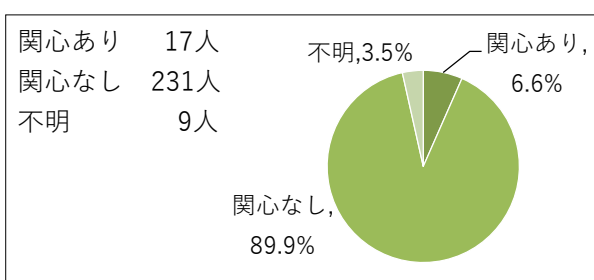
【調査の概要】

- ・手 法 調査対象への郵送によるアンケート調査
- ・対 象 J Aいわて中央 りんご部会会員 456人
- ・回 収 269人（回収率 59.0%）

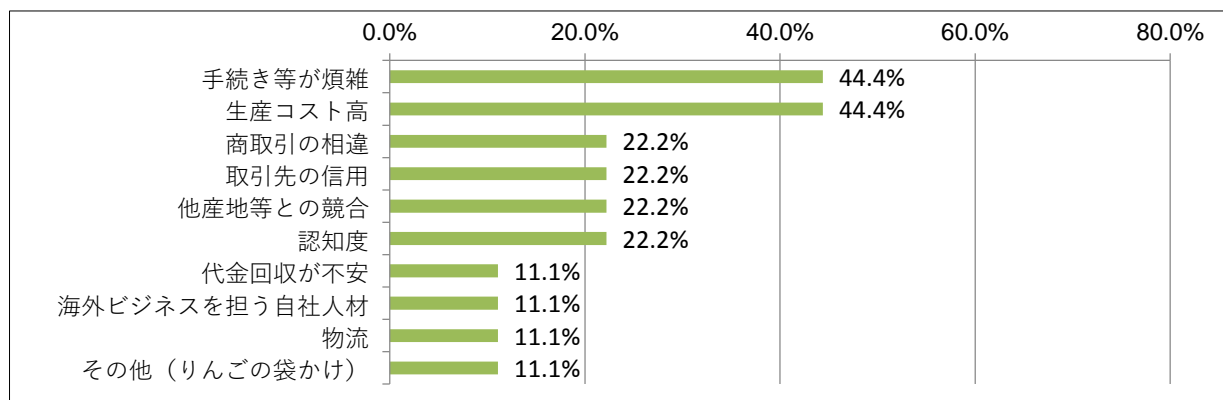
【2018年度りんごの輸出実績（n=269）】



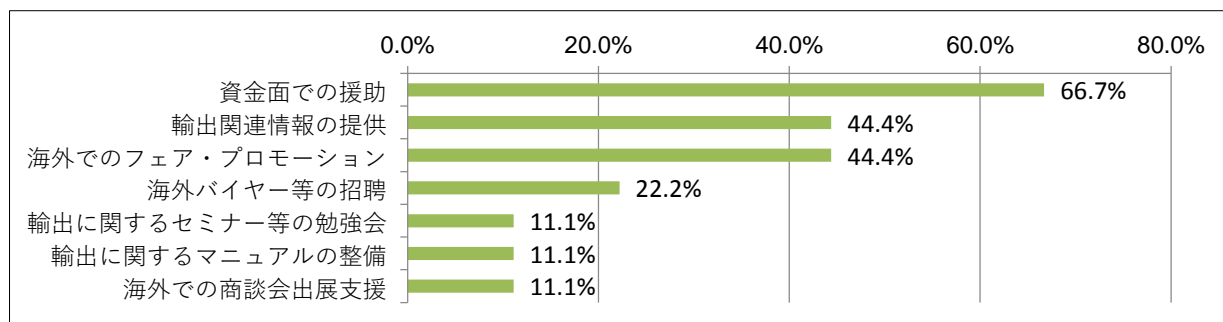
【輸出への関心（輸出実績がない方 n=257）】



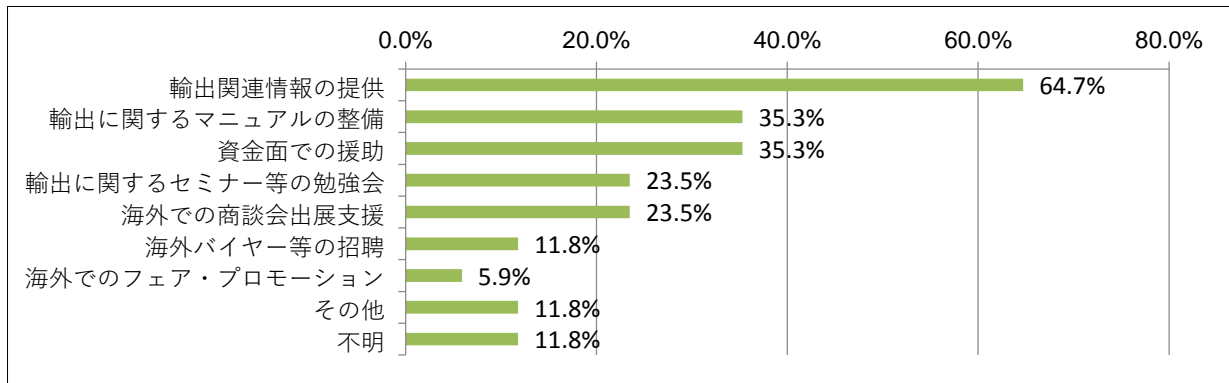
【輸出する上での課題（輸出実績がある方 n=9）】※複数回答



【市に期待する支援（輸出実績がある方 n=9）】※複数回答



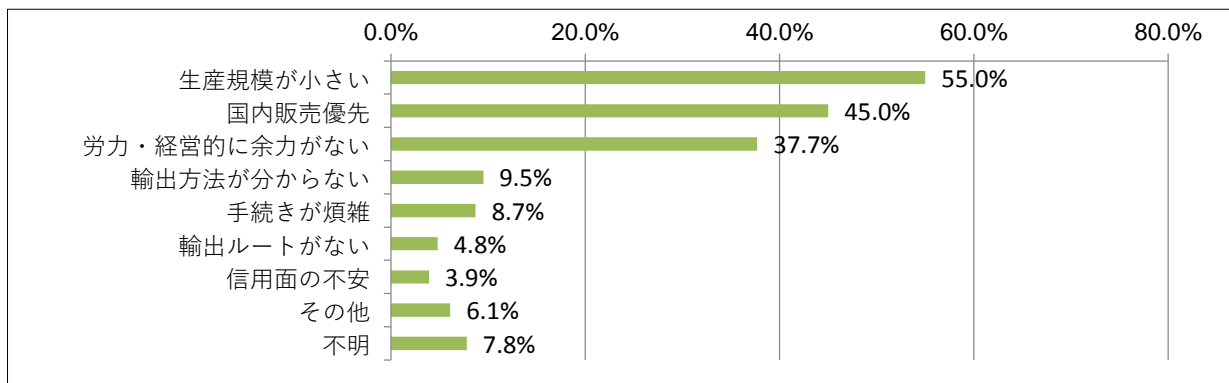
【市に期待する支援（輸出に関心がある方 n=17）】※複数回答



※その他の支援

- ・手続きや検査の簡素化，スピーディに。

【関心がない理由（輸出に関心がない方 n=231）】※複数回答



※その他の理由

- ・贈答用などのつきあいのある顧客を大切にしたい。
- ・インバウンドマーケティング（外国人旅行者のお土産）を優先する。
- ・輸出用の良いりんごが作れない。
- ・単価的に合うかどうか。収入に変化はないのでないか。
- ・意欲が不足している。離農を考えているので興味がない。

【その他輸出に関する意見】

- ・国外に目を向けるよりもまずは国内に力を入れるべき。
輸出は産地PRとしては評価するが、国内向けに一段と力を入れて欲しい。
青森県などに比べて岩手県は少量生産であるので、国内メインで良いと思う。
早期に輸出振興を位置づける盛岡市の意向が理解できない。
- ・JAが主体的に進めてほしい。
JAが主体的に輸出しているので、個人対応の必要はない。
個人での輸出は無理なので、JAに輸出をお願いしたい。
- ・生産量や労働力が不足している。
費用対効果を出すためには、かなりの生産規模が必要と感じる。
顧客、産直出荷で輸出へまわす量が足りない。
兼業農家のため、時間や労力が無い。

第3 基本方針

1 重視する視点

輸出促進の背景や輸出に関する現状などを踏まえ、今後支援を行う上で重視する視点を次のとおりとします。

視点① 関係団体において様々な支援や取組が行われており、市は連携や役割分担を進めるべきであること。

- ・国やジェトロにおいて、輸出相談やセミナーの開催をはじめとした幅広い輸出支援が行われています。
- ・いわて農林水産物国際流通促進協議会では、いわて国際戦略ビジョンに基づき、様々な取組が行われており、市は、関係団体と同様の支援ではなく、連携や役割分担により支援を行う必要があります。

視点② 市の姉妹都市や友好都市提携を契機とした販路開拓や、積極的な海外需要の取り込みが必要であること。

- ・盛岡りんごなどの特産品については、市の姉妹都市や友好都市提携を契機として、トップセールスなどによる同地域への販路開拓が可能です。
- ・近年の外国人観光客の増加や、ホストタウンの取組といった機会を捉えて、盛岡産農畜産物の海外需要を積極的に取り込む必要があります。

視点③ 輸出ロットの確保や輸出品目の多様化が課題となっていること。

- ・りんごや米以外の特産品については、各品目の生産量が少なく、輸出ロットを確保することが難しい状況にあります。
- ・りんごや米については、アジアを中心に他県産品との競争が激しくなっており、他の産地との差別化や、他の特産品と合わせて輸出することも検討する必要があります。

視点④ 生産者の輸出への関心は低く、今後は、セミナーなどを通じた意欲の喚起や機運の醸成を図る必要があること。

- ・りんご生産者へのアンケートによると、個人での輸出実績はほとんどなく、輸出への関心も低くなっており、今後は、セミナーや説明会を通じて、輸出を進める上での必要な情報を広く提供し、輸出に関する意欲の喚起や機運の醸成を図る必要があります。
- ・現時点で関心がないと答えた生産者の半数が、「生産規模が小さい」ことを理由に挙げており、今後は、小規模農家でも取り組みやすい仕組みづくりや情報提供により、関心が高まる可能性があります。

2 基本方針

重視する視点を踏まえ、市が目指す姿（状況）と基本方針を次のとおりとします。

(1) 目指す姿（状況）

- ① 新たな販路として海外市場が認識され、輸出に取り組む生産者が増加している。
- ② 継続的・安定的な輸出が行われている。
- ③ 輸出により生産者の所得が向上している。

(2) 基本方針・主な取組

基本方針 1 関係団体と連携した幅広い輸出支援（視点①、④）

岩手県やジェトロ、いわて農林水産物国際流通促進協議会、JAなどの関係団体と連携しながら、海外バイヤーの招聘やプロモーション活動などを行い、輸出促進を図るほか、セミナーの開催などを通じて、輸出を進める上での必要な情報を広く提供し、輸出に関する意欲の喚起や機運の醸成を図ります。

また、盛岡市6次産業化等スタートアップ支援事業などを通じて、海外への販路拡大に向けた取組を支援します。

【主な取組】

- ・「いわて国際戦略ビジョン」の基本戦略に基づき、海外市場への展開を図ります。
- ・いわて農林水産物国際流通促進協議会が実施する輸出促進事業（海外バイヤーの招聘、海外でのプロモーション活動、商談会など）と連携しながら、インバウンド消費と輸出の好循環を図る取組を推進し、盛岡産農畜産物の販路開拓・拡大を目指します。
- ・ジェトロが開催する各種セミナーを通じ、輸出先のマーケット情報や規制・検疫などの情報を提供しながら、生産者の意欲の喚起を促します。
- ・「産業振興の連携に関する協定」を締結している日本政策金融公庫と連携しながら、輸出に関するセミナーの開催やビジネス展開に向けた支援を行います。
- ・「盛岡市6次産業化等スタートアップ支援事業」において、海外への販路拡大に向けた取組に対し、1事業につき50万円（団体・グループの場合は1事業につき100万円）の助成を行います。
- ・盛岡市農業振興連絡協議会において、輸出に関するフォーラムやセミナーを開催し、生産者の意欲の喚起を促し、輸出に向けた機運の醸成を図ります。
- ・盛岡市農業再生協議会や玉山地域農業再生協議会において、経営所得安定対策等交付金（産地交付金）を活用し、輸出用米の産地形成及び農家所得の安定を図ります。



ジェトロ食品輸出商談会 in 岩手



盛岡市6次産業化等スタートアップ支援事業で開発された加工品



農政フォーラム 2019
(GAPに関するパネルトーク)

基本方針2 姉妹都市、友好都市などを突破口とした積極的な販路開拓（視点②）

「いわて国際戦略ビジョン」の基本戦略を基本としながら、市の姉妹都市であるカナダのビクトリア市や、友好都市である台湾の花蓮市などを同国（地域）への輸出の突破口としながら、JAなどの関係団体と連携したトップセールスやプロモーション活動などを行い、海外市場への販路開拓に取り組みます。

また、近年の外国人観光客の増加や、ホストタウンの取組といった機会を確実に捉えて、盛岡産農畜産物の海外需要を積極的に取り込みながら、盛岡産農畜産物のブランド力向上と海外市場への販路拡大に取り組みます。

【主な取組】

・カナダのビクトリア市や台湾の花蓮市などを同国（地域）への輸出の突破口としながら、りんごフェアなどのトップセールスやプロモーション活動などを行います。

・近年の外国人観光客の増加や、ホストタウンの取組といった機会を確実に捉えて、効果的なプロモーション活動を展開し、盛岡産農畜産物のブランド力向上と海外市場への販路拡大に取り組みます。



盛岡りんごフェアインカナダ



ラグビーナミビア代表歓迎レセプション



盛岡りんごフェアイン花蓮

基本方針3 盛岡広域農畜産物の強みを結集した取組の推進（視点③）

盛岡広域各市町やJAと連携しながら、各市町の農畜産物の「強み」を結集し、輸出品目の拡大など、継続的・安定的な輸出に向けた取組を推進します。

取組の推進に当たっては、現在、6次産業化の推進などに取り組んでいる食農推進協議会において進めます。

【主な取組】

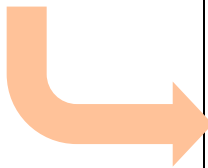

・食農推進協議会において、輸出に関する情報共有を行いながら、盛岡広域各市町と連携した、継続的・安定的な輸出に向けた取組を推進します。

3 ロードマップ

目指す姿の実現に向けたロードマップを次のとおりとします。

実現に向けて、生産基盤の強化などの様々な農業施策を実施しながら、大きく3つのフェーズに分けて、段階的に取組を推進していきます。

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> ① 新たな販路として海外市場が認識され、輸出に取り組む生産者が増加している。 ② 継続的・安定的な輸出が行われている。 ③ 輸出により生産者の所得が向上している。
------	---

	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3
年度	2020～2022（3か年）	2023, 2024（2か年）	2025, 2026（2か年）
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・関係団体との連携強化 ・生産者の意欲喚起 ・輸出に向けた機運醸成へ 	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出に取り組む生産者の増加へ ・供給・流通体制の検討 ・戦略の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ・戦略の推進 ・継続的・安定的な輸出を促進 ・生産者の所得向上へ
取組	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>基本方針1 関係団体と連携した幅広い輸出支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いわて国際戦略ビジョン」の基本戦略に基づいた海外市場への展開（県、市） ・バイヤー招聘やプロモーション活動、商談会など（いわて農林水産物国際流通促進協議会） ・セミナーの開催や輸出先のマーケット・規制・検疫などの情報提供（ジェットロ） ・セミナーの開催やビジネス展開に向けた支援（日本政策金融公庫） ・「盛岡市6次産業化等スタートアップ支援事業」による助成（市） ・フォーラムやセミナーの開催（盛岡市農業振興連絡協議会） ・経営所得安定対策等交付金（産地交付金）を活用した輸出用米の取組に対する助成（盛岡市農業再生協議会・玉山地域農業再生協議会） </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>基本方針2 姉妹都市、友好都市などを突破口とした積極的な販路開拓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カナダや台湾などへのトップセールスやプロモーション活動（市） ・外国人観光客や、ホストタウンの取組を捉えた効果的なプロモーション活動（市） </div>		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>基本方針3 盛岡広域農畜産物の強みを結集した取組の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出に関する情報共有と継続的・安定的な輸出に向けた取組の推進（食農推進協議会） </div>		
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>供給・流通体制の検討</p> <p>戦略の策定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点品目、国（地域） ・取組状況に応じた支援 ・年次計画、予算 ・成果指標 など </div>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>戦略の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点品目、国（地域） ・取組状況に応じた支援 ・年次計画、予算 ・成果指標 など </div>		

強い農業の確立
<ul style="list-style-type: none"> ・生産基盤の強化 ・優良農地の確保 ・意欲と能力のある農業者の育成、確保 ・スマート農業の導入、推進 ・6次産業化、異業種間交流の推進 ・高品質化、更なるブランドの確立 ・農地の利用集積、集約化 ・荒廃農地の発生抑制、再生利用 ・新規就農者の確保 ・GAPの導入 ・有害鳥獣対策 ・ニーズに対応した生産、産地形成